

# 「夕張市における地域福祉の現状と課題—夕張市社会福祉協議会を中心として—」

江戸川大学総合福祉専門学校

三輪 秀 民

## 1 はじめに

地方公共団体の財政悪化を示すものとして、2008年1月27日付日本経済新聞は、「地方公社や第三セクターに対し、地方自治体が債務保証や損失補償をするいわゆる『隠れ負債』が一部市町村で大きな負担となっており、総務省の2007年3月末時点の資料によると、隠れ負債が健全性の基準となる『標準財政規模』を超えたのは、青森県大鰐町や北海道夕張市など11あった。」と報道している。

一方、市町村社会福祉協議会をとりまく環境は、平成の市町村合併、地方公共団体の財政悪化・財政危機に伴う人件費補助の削減や委託事業の縮小、特定非営利活動法人（以下、NPOという）などの台頭などで大きく変化している。

市町村をめぐるこうした環境のなかで、「市町村合併と地域福祉研究会\*」（以下、合併研究会という）は、2006年度の合併研究会で、財政破綻した夕張市の社会福祉の今後のあり方を調査・分析し、調査結果を提示することは、夕張市のみならず財政危機にある市町村にとっても資するのではないかと考え、調査することを決定した。

筆者は、合併研究会に設立当初から参加しているが、今回の調査では、夕張市社会福祉協議会（以下、夕張市社協という）およびその関係機関・施設を担当した。

\*（注）市町村合併と地域福祉研究会は、全国の大学等の教員などで構成され、「平成の市町村合併と地域福祉」をテーマとする約20名の研究グループである。

## 2 研究の方法

筆者は、合併研究会の夕張調査団（5名）の

一員として、2007年9月2～7日（6日間）に、夕張市に出張し、社会福祉関係の機関・施設・団体の協力を得て、財政破綻した夕張市の実態調査を行った。調査に先立ち、合併研究会で情報交換を行い、また、参加メンバー各自の担当分野に関し、文献・インターネットなどで事前調査を行った。

## 3 研究の目的

夕張市社協のみならず財政危機にある市町村の市町村社協に資するため、財政破綻した夕張市に業務委託費や人件費補助などで大きく依存していた夕張市社協の今後のあり方を調査・分析し、調査結果を提示することを目的とする。

## 4 研究結果の要旨

### (1) 夕張市の主な歴史

1943年に市制を施行した。1961年頃からのエネルギー革命で、石炭から石油や原子力に転換が進められ、産炭地である夕張市も大きな影響を受けた。1981～83年頃には、夕張市のほとんどの鉱山が閉山となった。

### (2) 夕張市の特徴

石炭の隆盛時には、北海道炭鉄汽船（株）の企業城下町であった。夕張市の福利厚生は、同社により行われたこともあり、「会社依存」の体質が醸成された。閉山後は、「行政依存」の体質へと引き継がれた。夕張市の財政破綻は、観光への過大な投資とされているが、市民のチェック機能が不十分であったことは否めない。

### (3) 夕張市の社協の現状

#### a 設立の経緯について

1951年12月に設立、1967年6月22日に社会福祉法人の認可を受けた。職員数は13名、このうち、正職員は5名である。

#### b 予算・財政について

予算規模は、2006年度は4480万円（うち、人件費3270万円）、2007年度は3370万円（うち、人件費2450万円）となっている。

- c 事業について  
重点事業としては、①老人福祉会館の管理・運営の推進②住民参加によるネットワークづくりの強化③在宅福祉サービスの充実・強化、の3事業である。

#### (4) 主要な事業について

夕張市社協が行っている事業のうち、主要3事業である「ふれあいサロン事業」、「老人福祉会館」、「福祉有償運送」は、以下の通りである。

- a ふれあいサロン事業について  
若菜地区で11連合町内会で構成され、地域リーダーとして30名が登録されている。「何でも相談ふれあいサロン」が週2回、旧若菜連絡所跡で開催されている。
- b 老人福祉会館について  
夕張市は、「利用料を見直し、指定管理者制度を活用する」との方針で、2007年度から夕張市社協に委託した。夕張市社協が利用料を300円にしたところ、利用者が4割減となった。利用料を無料にすると年間赤字は600万円になる。
- c 福祉有償運送について  
2000年頃、人工透析高齢者の輸送相談が夕張市社協に寄せられた。本事業は2006年に認可された。運転手は、嘱託職員が1名、有償ボランティアが10名、社協職員全員が担当している。本事業の収支は、2006年度で70万円の赤字である。

#### (5) 夕張市社協の展望と課題

- a 事業運転基金について  
事業運転基金は、2010年度で底をつく見通しである。
- b 老人福祉会館について  
夕張市の指定管理者制度による運営委託であるが、年間600万円の赤字への対応が課題である。2008年度は、利用者や全国からの寄付で継続することになった。
- c ふれあいサロンについて  
現在、若菜地区など4地区で実験中であ

る。社協としては、継続の方針である。

- d 夕張市社協の各種計画について  
「経営計画」、「地域福祉活動計画」などは未策定である。

## 5 考察

今回の調査で得た考察として、以下の5点を指摘したい。

### (1) 社協事業資金の確保

夕張市からの人件費の補助は、2006年度の3300万円から2007年度には2200万円に減少、2008年度以降は不明である。事業用運営基金として4000万円あったが、年間880万円が取り崩されるため、2010年度で底をつき、2011年度以降不透明である。自主財源としての会費収入は、年間400万円にとどまっている。事業を推進するための資金確保が経営課題でもある。

### (2) 社会福祉のシステムづくり

財政破綻した夕張市に代わって社会福祉を推進する役割を担いうる機関は、夕張市社協以外には見当たらない。夕張市は、基本的には、指定管理者制度を活用し、社会福祉施設などの運営委託先を探しているようにも見えるからである。

### (3) 人材の育成と発掘

社協の人材を補完するものとして、地域ボランティアや地域コーディネーターの育成が求められる。

### (4) 社協事業の選別化（強化と撤退）

強化すべき事業としては、「福祉有償運送」である。輸送という共通のニーズのある社会福祉施設や小中学校との連携を模索することが求められる。撤退もやむを得ない事業としては、「老人福祉会館」である。年間600万円の出費は、現在の夕張市社協の体力では無理ではないかと思われるからである。

### (5) 地域資源のネットワーク化

共通テーマの解決に向けて医療・福祉施設などとのネットワーク化が求められる。

## 6 残された課題

夕張市および夕張市社協に関する今後の取り組み課題として、以下の2点をあげたい。

### (1) 冬の夕張市における福祉

冬場の夕張市の降雪の状況を筆者は想像することができない。テレビなどでの報道で推測するばかりであるが、高齢者が生活するにあたっての足の確保、雪下ろしや除雪など冬場における生活上の課題にどのように取り組んでいくかである。夕張市の市民は出勤する前に1時間余り除雪をすとのことである。

### (2) 夕張市とその関係機関の調査について

夕張市（役所）への取材は、有償であり、しかも時間制限がある。これらの理由で、夕張市の取材ができなかったため、介護保険制度や地域包括支援センターの運営などについて調査できなかった。これら諸問題については今後の課題としたい。

## 7 社会福祉研究大会での助言者のコメント

助言者である松井准教授から筆者の報告に関し、「夕張市に対し、提言してほしい。」とのコメントをいただいた。

以上